

ほ場や苗の発育状況などAI解析 「可変施肥技術」を実演



ザルビオの設計に基づいて苗植えと肥料散布をする農機＝大垣市南市橋町

J A全農、農家ら対象に 大垣市

全国農業協同組合連合会
県支部(J A全農岐阜)は
22日、衛星画像と人工知能
(AI)解析を利用し、ほ
場の育ちやすさや苗の発育
状況に合わせて、散布肥料
の量を調節する技術「可変
施肥技術」を大垣市南市橋

町のほ場で披露した。
農作業の効率化を図る
「スマート農業」の一つで、
課題となっている高齢化や
人材不足の解決手段として
知ってもらおうと企画し
た。

この技術は、人工衛星で

撮影したほ場の画像を基
に、AIが苗の成育傾向を
解析。「施肥マップ」を作
成するソフト「ザルビオ」
が、場所ごとの施肥量を設
計する。ザルビオと連動し
て肥料を散布する農業機械
「スマート農機」を使用す
ることで成育のむらをなく
し、品質や収量の向上、作
業の効率化を図る。
実演会には、地域の農家
や県職員ら約90人が集まっ

た。40㍓のほ場を成育傾向
に基づき三つのエリアに分
け、それぞれ10㍓当たり40、
45、50㍓と散布する肥料を
設定。スマート農機で、決め
られた量の肥料をまいた。
J A全農岐阜営農対策課
の鹿野恭弘さんは「農家を
取り巻く環境は厳しい状況
が続いている。技術をたく
さんの農家で取り入れても
らいたい」と話した。
(西垣剛大)